

令和3年度

世界農業遺産小学生作文コンクール 入選作品集



世界農業遺産小学生作文コンクールについて

1…目的

次代を担う小学校第5学年及び第6学年を対象とした作文コンクールを実施することにより、広く世界農業遺産に対する関心を高め、理解を深める。

2…課題

「私のふるさとの世界農業遺産」(題名は自由)

3…応募数

国東半島宇佐地域内(豊後高田市・杵築市・宇佐市・国東市・姫島村・日出町)の小学校19校より182点

最優秀賞

国東市立志成学園 …………… 5年 安見 彩里
「ため池を守る池守り」

優秀賞

杵築市立立石小学校 …………… 6年 村上 陽向
「自然の大切さ」
杵築市立八坂小学校 …………… 6年 渡邊 駿貴
「自然を守ることを伝えていきたい」

入選

杵築市立山香小学校 …………… 6年 緒方 琥
「守ろう、自然のじゅん環システム」
豊後高田市立高田小学校 …………… 5年 山田 月海
「わたしのふるさとの世界農業遺産」
豊後高田市立香々地小学校 …………… 5年 大力 彩佳
「しいたけさいばい」



最優秀賞「ため池を守る池守り」

やすみ あやり
安見 彩里（国東市立志成学園 5年）

2013 年「国東半島・宇佐地域」の農林水産循環システムが、「世界農業遺産」に認定されました。認定された理由は、日本最大のクヌギ林とそれにかん養された水源が農林水産物や農村生活、多様な生物を育み、里山と農村の美しい景観を形成しているからです。

私の住む武蔵町三井寺地区にも、ため池があります。一つは、私の家の裏山をずっと上っていったところにあり、今は使われていません。散歩の途中で見つけた父は、こんな山の上にため池をつくっていて、びっくりしたと言っていました。

もう一つは、大正時代の初期につくられた奥迫池です。私の父は今年ちょうど池守りをしています。池守りは、ため池の管理をします。地区で、当番が決まっていて数年に一回回ってきます。父に、池守りが回ってくるのはこれで三回目です。池守りは、二人一組でします。なぜ

かという、樋をぬくとき水の中に入ってつからなければならないので、とてもきけんのです。へたをすると、すい込まれるときもあります。父が、初めて池守りをしたときは、水の中に入って樋をぬくのが気持ち悪かったと言っていました。五年ほどまえに、奥迫池の改修工事があり、新しくゲートができたので、水を流す仕事が楽になったそうです。

池守りになると、田んぼをつくっている人から電話がかかってきます。それは、
「田んぼに入る水が、少ないから池の水を落としちょくれ」

だったり、

「水が、ようけ入りよるから止めちょくれ」

だったりします。そのたびに、父はため池に行って、水を落としたり、止めたりしています。それは、お米づくりをしていく期間中、ずっと続けました。父は、会社に勤めているので、その作業は早朝にしたり、夕方帰ってからしたりしていました。私は、大変だなあと思いました。

ため池は、水不足で作物が育たなかったため、昔の人がお金を出し合ってつくったものです。その管理も、ため池を使う人が持ち回りで行ってきました。それが、百年以上経った今も、同じように米づくりに活用されています。私は、そのことに感動しました。

三井寺地区は、高齢化が進んでいて池守りをすることが、できる人がどんどん少なくなっています。この、歴史あるシステムが私が大人になるころに残っているのか心配です。これから、どのようにしたらため池を守っていけるのか考えていかなければならないと思います。



優秀賞 「自然の大切さ」

むらかみ ひなた
村上 陽向（杵築市立立石小学校 6年）

ぼくたちの学校では、毎年、地域の方の田んぼで田植えをしています。ぼくは、今年が小学校生活最後の田植えでした。六年生として下級生に植える場所を教えながら、楽しく行い、「おいしいお米ができますように」と思いました。

立石地区は、田んぼが多く、学校の周りにもたくさんあり、昔から稲が多く作られていると思っていました。しかし、実は山に囲まれた土地で、川も少なく、稲作に向いているわけではないと知ったのです。

それは、四・五年生で立石地区の偉人「野口善兵衛さん」について調べたときに分かりました。善兵衛さんは、立石の人が作物が取れず苦しむ姿を見て、ため池作りを始めたそうです。多くの人が汗をかき、力を合わせて働いたおかげで、十五個のため池ができました。また、善

兵衛さんは、ろうそくづくりも始め、立石の人が働く場所をつくり、地域の発展を目指しました。さらに、昔は山に木がほとんどなく草ばかりだったそうです。そこで善兵衛さんは、植林も行ったそうです。植林のおかげで現在の立石は、たくさんの木々でおおわれています。善兵衛さんのおかげで今の豊かな立石があります。

六年生になって、世界農業遺産について学習をしました。世界農業遺産の目的は、こうしたいろんな価値をもつ伝統的な農業を次の世代に引き継ぐことです。富来地区のため池がクヌギ林と中心になって「循環システム」になっていることを知りました。循環システムがあることで、田畑の豊作を神様にお祈りするお祭りや多様な生き物、豊かな農林水産物、すばらしい景観などの恩恵があると分かりました。クヌギ林が食べ物を産み、ため池文化を生んでいておどろきました。

長年かけて先人たちが築いた「循環システム」が、世界に誇れる農林水産物を育み、文化や景観を守る大きな輪になっています。ぼくたちの住んでいる立石地区でいうと、立石楽やホテル、たくさんのお米、緑が多く自然豊かな土地のことだと思います。この国東半島宇佐地域が世界農業遺産に選ばれ、それぞれの場所がつながり、大切にされていってほしいです。

最後に、善兵衛さんへの手紙を書きます。

善兵衛さんへ。たくさん勉強して、立石の人々のためにため池を作ることなどを提案していますすごい人だなと思いました。善兵衛さんのおかげで、田んぼが前より増え、お米がたくさんとれる豊かでとてもいい立石地区になりました。これからは、ぼくたちが立石地区の豊かさを守っていきたいです。



優秀賞「自然を守ることを伝えていきたい」

わたなべ しゅんき
渡邊 駿貴（杵築市立八坂小学校 6年）

世界農業遺産ってなんだろう、世界文化遺産とどうちがうだろう。と思い図書館に行き調べたら、世界において重要かつ伝統的な農林水産業を営む国連食糧農業機関が認定する制度でぼくが住む大分県国東半島宇佐地域も認定されていると知りました。世界農業遺産について知りたかったので図書の先生に「カブトムシ山に帰る」という本を紹介してもらいました。

最近カブトムシが小さくなり減りつつあるということが書かれていました。昔は、木を材料としてご飯を炊くのも風呂を沸かすにもマキを使って生活をしていたけれど、今、ぼくたちの生活は電気や石油を使用しています。そのため雑木林も荒れ樹液も腐葉土も少なくなってきたため、カブトムシにとって生活がしにくくなってきたので、カブトムシが減っているそうです。

なぜ雑木林が荒れると悪いかというと、クヌギの木から豊かな樹液が出なくなり栄養豊富な

腐葉土ではなくなるからです。カブトムシやクワガタムシの幼虫の時に、どれだけ栄養をたくさん食べているかで成長した時の大きさが決まります。カブトムシが生活しやすい環境というのは、人間も同じです。人は自然から多くの恩恵を受けています。美しい風景、きれいな空気と水そして何よりも大切な食べ物を得ることができています。

ぼくの住んでいる杵築は、自然が豊かです。

夏の始めには池の周りの田んぼで、ホタルをたくさん見ることができます。また、家の近くにあるクヌギでカブトムシやクワガタムシを採ったこともあります。いろいろな種類が採れたり、大きいものが採れたりした時はとてもうれしかったです。家の田んぼでは毎年おじいちゃんがお米を作ってくれます。大変な農作業をしてくれることに感謝しておいしく食べています。海で釣りもよくします。海が美しい時とゴミでよごれている時があります。美しい時は、とても気持ちがよくなり、よごれている時は、ゴミを捨てた人に注意したい気持ちになります。こんな自然のかかわりがあたり前のことだと思っていたけど実際この本を読んで、人と自然が協調して生きているんだなと気づかされました。

このような中で、大分県国東半島宇佐地域が、世界農業遺産に認定されていることも大分県に住んでいるぼくにとってはほこりだなと思います。

ぼくの、大好きな海や魚や生き物がずっといい環境のままで減らないといいなと思います。

自然を守ることで生き物と、ぼくたち人間も快適な環境で生活できるのだと思います。「自然を守ることが、命を守ること」だと思います。だから自然を守ることを伝えていきたいです。



入選「守ろう、自然のじゅん環システム」

おがた たける
緒方 琥（杵築市立山香小学校 6年）

世界農業遺産について作文を書くことになったとき、ぼくは、初めて自分の住んでいる地域が世界農業遺産になっていることを知りました。でも、そのことについてはあまり知りませんでした。「木が食料を産む」という本を読んで、世界農業遺産は、自然が豊かだというだけでなく、その地域の伝統的な農業や文化、いろいろな生き物との共生などができている地域が登録されていることを知りました。

ぼくのおじいちゃんは、山浦で田んぼを作っています。ぼくは、田植えや稲かりなどのとき少しだけ手伝いをしています。農作業はとても大変な仕事でした。今年は、土入れと種まきも手伝いました。どちらも力仕事なので、がんばって働きました。田んぼの仕事はたくさんあり

ます。それをおじいちゃんがていねいにしてくれます。だから、おいしい、おいしいお米ができます。ぼくがおいしいお米を食べられるのはおじいちゃんのおかげだと思っていたら、なんと、ため池のおかげでもありました。田んぼの仕事の中でも大変なのは水の管理です。梅雨や、日照りの夏に水の管理をするのはとても大変です。でもため池があれば、水の調節ができ、田んぼをうるおしてお米を育てることができます。また、田んぼだけでなく、森林を育ててくれたり、自然災害をくいとめたり、水を川から海へ流して海中でプランクトンを育て、水産資源を守ってくれたりしています。そして、また海の水が雲になって、山で雨を降らせ、それをクヌギ林の落ち葉が、保水マットとなって雨水をためたり、ため池の水が一定に保たれたりしています。ため池はそういった自然のじゅん環システムをつくってくれているのです。ぼくが読んだ本には他にもため池がもたらしてくれることがたくさん書いてありました。

そういえば、山浦には大きな川はありませんが、ため池がたくさんあります。そのおかげであまり水には困りません。おじいちゃんの苦労や、そのため池のおかげで、おいしいお米や野菜が食べられるのだと改めて思いました。

世界農業遺産は、地域のこの大切な特色を世の中に残すためにできたものだそうです。少子高齢化が進み、農業をする人が少なくなってきた今こそ、この世界にほこれる先人たちの遺産を守れるように、もっとみんなで学び、広げることが大切だと思います。



入選「わたしのふるさとの世界農業遺産」

やま だ つき み
山田 月海（豊後高田市立高田小学校 5年）

私は世界農業遺産について最初は、まったく知りませんでした。でも今日調べてみて、日本だけでなく世界の農業遺産に豊後高田市が入っていると知ってとてもうれしいな、すごいなと思いました。

まず、クヌギの木についてです。最初は木を切ったら、新しい種を植えて新しい木を育てていると思っていました。でも勉強している中でクヌギの木は伐採しても切り株から萌芽して再生するので、木材資源が循環するという優れた特性があるということを知りました。一年生の時にシイタケ栽培で使ったクヌギの木も循環していると知っておどろきました。

次にため池についてです。私はため池を見たことがなかったです。ただ調べてみたことで、

いくつか分かったことがあります。

一つ目はクヌギ林の落ち葉が保水マットを作り雨水を保全していることです。

二つ目はため池に水がいつも一定に保たれてため池を複数連携させ、より多くの水を保てることです。

三つ目は田畑を潤し農作物を育てることです。

これらのことから、川から海へ水が循環し、そしてそこにプランクトンなどたくさんの生き物がいるということを知りました。

クヌギの木やため池の水の循環によって、すばらしい景観や多様な生態系や乾シイタケやお米などの農林産物といった、たくさんの恩恵を受けているということを知りました。

今回の学習を通して自分にできることを考えてみました。それは水をきれいにすることです。たとえば、水の中にゴミを捨てたりしないことや、むだに水を使ったり、水を使った後は、水を出したままにしないことに気をつけていこうと思います。

また、国東半島宇佐地域について調べましたが、今度は他の地域や国々の世界農業遺産についても、調べていきたいなと、思いました。



入選「しいたけさいばい」

だいきりき あやか
大力 彩佳（豊後高田市立香々地小学校 5年）

私の家は農家です。中でも、お父さんは、しいたけさいばいに力を入れています。

私が大変だと思う作業は、三つあります。まず一つ目は、こまうちです。毎年、家族でこまうちを八万個しているので、一人では、大変な作業だと思います。二つ目は、しいたけの管理です。お父さんは、しゅうかく時期になると、毎日天気予報を見て、雨がふる予報だとしいたけの木にビニールをかけます。なぜなら、雨にあたるとしいたけの品質が悪くなるからです。三つ目は、しいたけのかんそうです。いつも夜中に何度もかんそう機を見に行っているからです。

実際にお父さんに聞いてみると、一番大変な作業は、重たい木を移動させたり立てたりすることだそうです。私も小学校四年生の時、学校でしいたけのこまうちをした木をもちました。

小学校の木は、家の木の三倍くらいあるのでとても重いことが分かります。大変なことの予想は、ちがっていたけど、しいたけさいばいは、大変な作業のくり返しだと思いました。

私たちは、総合的な学習の時間に、香々地の名物のPRをしようとしたけの種類、作り方などを調べたり聞いたりしました。給食のメニューを見て、食べた感想を書いて新聞みたいにまとめて、先生たちにも聞いてもらいました。その中でも、新しく知ったこともたくさんありました。同じしいたけでも、かさのまきこみが強いものは、「どんこ」、ヒダ立ちが美しい物を「こうしん」といい、ふせ方もいろいろなやり方があるということです。なぜいろいろなふせ方をしているかというと、その土地のかんきょうなどに合わせているからだそうです。私の家では、鳥居ぶせをしています。鳥居ぶせは、いろいろなかんきょうに合うそうです。

私は、お父さんに、こんな話をしてもらいました。それは、くぬぎの木のことです。くぬぎの木は、切られたら自分で芽を出し、また、大きくなったら、どんぐりを落とし、そこから芽を出します。このくり返しです。私は、くぬぎの木がカッコいいと思いました。なぜなら、自分の命を自分でつないでを行っているからです。

しいたけは、そのくぬぎの木を使ってさいばいされています。だからこそ自然を大切にしておいしいしいたけを、たくさんの人に食べてもらいたいです。